日よう子供

一学年 読書

日蔭の草と赤い小石

山崎 斌

其處は町端れの鉄道線路の鉄橋の下でした。広い鉄板は下に深い影を造ってゐます。その日蔭の冷たい鉄丸に沿ひて、一本の弱い草は生き乗て居ました。朝、太陽は柳らしい光を一面に投げかけます。線路土堤の草達は、一勢に頭を上げて新らしい日を仰ぎるのです。かゝ、かゝ下の蔭の草は、あゝお日様が今頃はお昇になった頃からうと、そのしほ〳〵した顔を東の方へと向けて みるのですが、暖かい日

P341 28 JUN

差しは到底其處までとどきません。午の太陽は高い空から銭気なく金粉を振りまます。草達は振仰いで眼も口も鼻も一杯に拡げて強く光線を少しでも余計にと吸ひ込みます。然し可哀さうな蔭の草の上には重い鉄板があるばかりです。反対になると線路の西側の土堤は美しく染められます。草達は紅の水にぬれたやうにきうきうとはしやいでお喋りをしながら光の行水をするのです。かゝ蔭の草は矢張りふしあわせな顔をうなだれるば

D形 10 20 イーグル印原稿用紙